

日綜産業システム足場 急斜面の難工事に威力

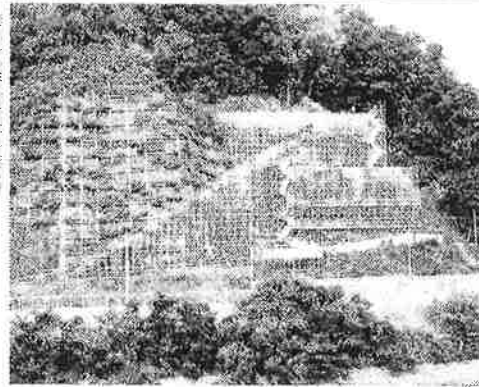
実り多い庄内平野と日本海の恵みを受ける豊穡の地である一方、冬季には雪が多く、厳しい気候にさらされる山形県鶴岡市。幹線道路である国道112号沿いに、仮設の足場が圧倒的なスケールで設置されている現場がある。東北地方整備局酒田河川国道事務所の発注、大栄(鶴岡市)の施工で進められているのが「熊出地区防雪工事」だ。

同工事は、冬季の雪崩を防止するため、高さ2.7mの雪崩予防柵を4段、総延長120mにわたって設置する。しかし、現地の斜面は平均勾配が55度。「人も立てない急斜面」(大滝修二大栄土木部工事部長)という難工事での施工に当たって採用されたのが、日綜産業の法面機械構台システム足場工法『法面8号』だ。

ハンマーのみで組立・解体ができるため作業がスピーディーで、足場内での作業もできる。非常に厳しい設置環境に、足場計画は難航したもののシステムの利点と技能に優れた地元の鳶工・有賀組(有賀哲社長)が組立を担当

熊出地区防雪工事

発注 東北整備局酒田河川国道
施工 大栄



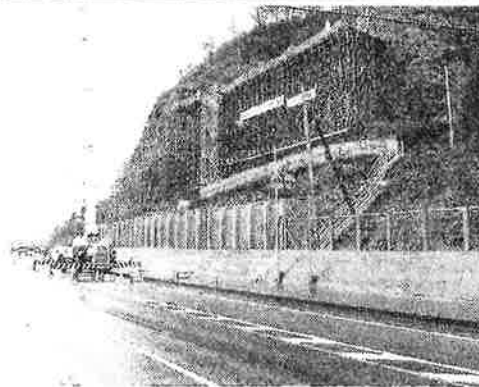
ジェットコースターを思わせるピーク時の仮設

したことで、8月下旬の作業開始からは「当初予定されていた単管パイプの足場と比べて半分の2カ月で作業を終えた」(大滝部長)という。

足場の転倒防止のため、法面の岩盤にはアンカー付鉄筋を全ジャッキに打ち込んで固定するなど、安全面にも万全を期している。

総重量150tにも及ぶ構台を最大54mの高さまで組み上げた壮大とも言える足場には、高所に資機材を搬出入する長さ240mのモノレールを設置。その様子は、まるで大型遊園地のジェットコースターを思わせる。

工事はこれまでに、上部2段目までの雪崩予防柵が完成しており、その部



上部の仮設がはずれ本来の雪崩防止柵が垣間見える

分までの足場は既に撤去されている。しかし、国道から斜面を見上げると目に入るのは依然として足場のみ。大滝部長も「足場しか見えず、傍から見ても何の工事をしているか分からない」と思わず苦笑いする。

元請けである大栄と協力会社との連携、日綜産業のシステム足場の活用などが相まって、難工事も順調に進み、11月末現在の進捗率は約75%。大滝部長は「ここまで来たら無事故・無災害を継続しながら、雪が降る前に完成させたい」と語る。

地域に寄せる地元建設業の愛情と高い技術力が、地域住民の安全と生活を下支えしている。

建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-13-7
電話(03)3259-8711
FAX(03)3259-8730
振替貯金口座00190-2-97953
©日刊建設通信新聞社 2013